HAKODATE UNIVERSITY

Alumni Interviews
2017~2025

国内・海外で輝く
函館大学卒業生の
インタビュー集

NOMATA
学校法人 野又学園

01

医療法人徳州会 共愛会病院 経理課 勤務

小林　孝嗣 さん

平成28年3月卒業／北海道七飯高校出身



経営管理の上、結果として出した数字を、精算部門へと詳細説明する。その中で、専門的な言葉をあえて使わずに説明するなど、相手の立場に合わせ言葉選びをする事も、大切なスキルの一つです。



責任者として、部署の運営のみではなく指導の面でもコミュニケーションをはかり、理解を高め、しっかり育成する事が一番大切です。

就職してから6年間は千葉県にある病院や本部で働き、成田市の病院では開院メンバーとして勤務し、総務課のスタッフとして主に人事や職員の福利厚生、各種保険や設備に関わる業務に携わりました。地元である函館へ転勤し、当院の経理に配属され、今に至っています。

経理課として、病院経営を管理する業務に関わるようになってまだ2年程ですが、経営に関する数字や人件費、医療機器など、病院を経営観点からみる現況や、今後の指針を左右する、重要な「数字」をまとめる業務に対して責任感をしっかり持って取り組んでいます。

知らない事や、わからない事もありますが、未だに勉強の日々です。経営上の正確な「数字」を出す事は当然の事、その数字を元に利益が出たり、実際に結果が顕著に表れたときに、大きなやりがいを感じます。

数字というものは一筋縄ではいきません。どんな仕事でもそうですが、必ず先輩たちがいます。ですから私は、未経験、や未知な物に直面する時には、知らない事に恐れず、無知である自分を受け入れ、様々な人の意見や諸先輩たちが残してきたものを吸収して乗り越えています。また、今は部署の責任者を任されており、自分だけの偏った考え方にならないように気をつけています。

学生時代は、イベントや学祭などを通して、大人たちと関わるチャンスをいただき、一つのことをやり遂げる貴重な経験ができました。社会人になり、若い内には出来ないチャンスを頂き、チャレンジさせてもらっております。その中で未知に飛び込んで行くチカラとして、学生時代の経験は今も仕事への取り組みの中で活かされています。

目標は、当グループに入職する、後輩達の目標や模範となれるよう努力していきたいと思っています。

トライ&エラーは自分を成長させ、高みを目指す第一歩です、怖がらず恐れずチャレンジする事、自分の可能性を自分で切り開けるよう頑張ってください。

未経験や未知を恐れず トライ&エラーから吸収し 成長していく。

目標にしてもらえる
人間を目指して努力。

02

日本銀行 函館支店 発券課 勤務

秋山 舞桜 さん

令和7年3月卒業／函館大学付属柏稜高等学校出身



日常生活で新紙幣を目にする機会が増えたと感じた時には、この仕事が世の中の役に立っていると感じられ嬉しく思います。



興味を持ったことには何でも挑戦してみる。それが将来の選択肢を増やし、自分の可能性に気づく大切な一歩になったと感じています。

展示ルームにて（函館支店開設以降の米価〈当時は通貨に替わる指標〉など各種資料を展示）

地元に貢献したい学びと挑戦の先に見つけた道。

お客様からいただく感謝の言葉が原動力に。

高校生の頃から、将来は生まれ育った函館のまちに貢献したいという漠然とした思いがあり、地域との連携が盛んな函館大学を志望校に決めました。函館大学には、実際に函館や道南の地域に赴いて調査・分析を行う「商学実習」という授業があります。そこで函館の人口推移について学ぶ中、まちの衰退や少子高齢化といった地域が抱える課題の深刻さを知り、地元のために働きたいという気持ちが一層強くなりました。

日本銀行は日本銀行券（お札）を発行し、お金を円滑に流通させることで、経済活動や皆さんの生活基盤を支えています。現在、私は発券課で窓口での現金の受払や損傷現金の真偽・引き換え効力の鑑定といった業務を担当しているのですが、数字への厳格さはもちろんのこと、日々お金に関する様々な情報に接する中で「どうしてそのようなことが起きているのか」「自分の仕事にどう影響するのか」を的確に把握・分析することが大変重要だと感じるようになりました。

今年で入行2年目。「自信をもってお金を取り扱うことこそが仕事の根本であり信用につながる」という気づきから、予習・実践・復習の基本動作を疎かにしないよう意識しています。まだまだ覚えることはたくさんありますが、毎日の積み重ねにより自身の知見が広がっていくことを実感するとともに、社会人としても成長できているように感じています。先輩方のサポートを得ながらではありますが、周囲に頼られる存在を目指して着実にスキルアップしていきたいです。

函館大学は一人ひとりにしっかりと向き合ってくれるところが魅力で、さらに卒業生も大事にしてくれる大学です。学生時代はとにかくチャレンジあるのみ。その時、その場所でしか経験できないことが数多くあるので、何事にも全力で取り組んで悔いのない学生生活を送ってほしいです。

03

医療法人雄心会 函館新都市病院 総務課 勤務

根本　美久 さん

平成28年3月卒業／北海道函館商業高校出身



日本語が分からない外国人旅行者などが来院した時は、受付や診察から会計まで、英語力を活かして一連流れをサポートしていきます。

病院の総務課のスタッフは、事務に関わる全般に対応するスキルが求められるため、知識を深めていくために勉強の日々です。

財産となった経験を活かすことで役に立ちたい。

目標に向かって過ごした大学生活は充実感いっぱい。

函館大学に進学したのは、好きだった英語をより深く学びたいと思っていたことに加えて、生まれ育った函館のまちが好きだったことも大きな理由でした。大学では英語国際コースに在籍し、在学中はオーストラリアへの短期留学も経験させていただきました。卒業後は中学生の頃から目標としていた航空会社に就職することができ、お客様の搭乗手続きや案内業務などを行なっていましたが、「いつかは地元に戻ってきたい」という気持ちがあって帰郷。当院が出していた通訳と事務という業務内容の求人を見つけ、「語学も生かせて面白そう」と思って応募したことがきっかけで、昨年秋からお世話になっています。

普段は事務の仕事をしているため、あまり患者さんと接する機会はありませんが、日本語が通じない患者さんが来院し、私の能力が助けになる時にお話をして感謝の言葉をいただいた時は、役に立てたことを実感して嬉しい気持ちになります。病院で働く上で身をもって感じたことは、臨機応変な対応と正確な情報伝達の大切さです。ここは命に関わる現場ですから、医師や看護師と関わる業務では、そのことを一番に考えて行動しています。

今はまだ病院で働き始めてから日が浅く、専門的な医療に関する英語、病院の事務の知識が身に付いていないことで悩むことはありますが、その場で調べて伝えるなど、一つひとつ問題解決ができるように取り組んでいる最中です。そんな中でも、誰かのために役に立ちたい気持ちをいつも心に抱きながら、大学や前職で培ってきた経験を活かせるよう頑張っていきたいと思っています。

函館大学は在学生だけでなく、卒業生も大事にしていることが伝わってくる大学です。皆さんもそんな環境の中で目標を持ち、その目標に向かって突き進んでほしいと思います。

04

旭川明成高校 勤務

中田　楓弥さん

平成30年3月卒業／旭川実業高校出身



まずは自分自身が楽しむことによって、生徒たちにも「楽しみたいから学校に来る」と思ってもらえたら嬉しいです。

生徒に前を向いてもらうためのアプローチの仕方は難しいと悩むこともありますが、それがうまくいった時には大きなやりがいになります。

自らが仕事を楽しみ生徒と一緒に自分も成長していきたい。

苦労した経験は必ず自分の力になる。

高校生の時にソフトテニス部を自分たちで立ち上げて、歴史も伝統もなかった中で練習に打ち込み、全道で入賞するまで成長できました。同級生や後輩たちと一緒に努力してきた道のりが良い思い出となり、一緒に成長していける仕事をしていきたいと思って目指した職業が教員です。そこで、教員免許が取得でき、ソフトテニス部もある函館大学への進学を決めました。

ところが、大学時代に履修の仕方を間違えてしまうミスを犯してしまったのです。このままでは教員免許の取得が難しい状況になってしまった時に優しく手を差し伸べてくれたのが、教職課程で指導をしてくれていた先生でした。その先生は私と仲間のために夏休み期間中も付き添って指導してくれただけでなく、私がバイトや遊び目的で休んだ時もしっかりと怒ってくれたのです。その恩師のおかげで「その思いに応えなければ」という気持ちが原動力となり、私の教員への道が開けていきました。また、奨学金を借りていたため、授業料や生活費などの全てをアルバイトで賄っていた苦労も良い経験になりました。

今、私が数学を教えている本校は、教員がサポートし、生徒たちが協力しながら任意で自分たちのやりたいことを「探究」していくプロジェクトに取り組むなど、特色のある学校です。そのような環境の下、生徒たちと一緒にさまざまなことに取り組んでいく中で、一つでもできなかったことができるようになったところを間近で見ることができ、生徒自身が喜んでいる姿を見ていると、生徒自身はもちろん、私も一緒に成長できたと思えることを嬉しく感じる日々を送っています。今後は教員としての質を高めていくだけでなく、見識を深めて出会った人を一人でも多くプラスの方向へ持っていけるお手伝いをしていきたいと思っています。

05

HOTEIYA SANDWICH STAND NEW PORT オーナー

髙瀬　健太さん

平成28年3月卒業／北海道上磯高校出身



大学時代の仲間なども会いに来てくれるなど、卒業後もつながりが持てることも、自分でお店を運営する魅力だと感じています。



今、面白いと思ったことにトライしてみるというスタンスは、学生時代の経験が大きかったと思っています。

店を出すまでは、さまざまな経験を積み重ねてきました。大学卒業後は東京で営業職や販売職を経験、その後は日本とは違う景色が見たくてオーストラリア、カナダでレストランや農場などで働きながら、好きなものに触れて過ごしてきた日々は、今の仕事の下地になっています。

お店を運営していくに当たって決めていたことは、まずは自分が楽しむということ。それとつながってお客様に楽しんでもらうことでした。自分で何かを始めた場合、成功も失敗も自分に返ってくるわけですが、どちらになっても「生きている」という心地がして充実しています。また、自分が他のお店に行って快く感じなかったことは、この店では絶対にしないということも、自分なりのこだわりのひとつです。逆に、自分がされて嬉しかったことなどは、自分の流儀や店のスタイルに合わせて、お客様にアウトプットするように心がけています。

学生時代には映画祭に出品するショートフィルムを製作したりなど、さまざまなことにトライさせていただきました。どんな経験がどこで役立つのかは分からないものです。その時には分からなくても、後々振り返ってみると、経験してよかったと実感することもあることでしょう。私の場合、ショートフィルム製作での経験が今のお店のインスタ作りに影響を及ぼしてくれました。歴史を教える教員を目指して函館大学に進学した私でしたが、今は自分が敷いたレールから外れたことによって予想もしていなかった道を見つけたり、一生懸命生きていくことにつながったと実感しています。敷いたレールに沿って歩んでいくことも大切ですが、外れた道にも新しい発見があると思います。ですから、皆さんもチャレンジすることを大切にしてください。

様々な経験は きっとどこかで 何かの役に立つ。

成功も失敗も
自分が成長するチャンス。

06

HOTEIYA SANDWICH STAND NEW PORT オーナー

佐藤　啓太さん

平成28年3月卒業／函館大学付属有斗高校出身



広い視野を持つことは、色々な方向で活かせるはずです。嫌だと思ったことでも、やってみることは成長につながります。

コップに水が入っていなければ注いだりなど、目配り気配りを怠らないように気をつけています。お客様が再度来店してくれた時は嬉しい。

講義だけでなく、社会経験も充実した学生生活。

つながりを活かして
様々なことにトライ。

中学・高校と英語が得意だったこともあって、函館大学の英語国際コースに進学しました。函館は道内有数の観光都市であり、函館大学はそのような環境の中で英語力を高められるプログラムがあるところが大きな魅力です。また、教員も職員の方も、まるで家族のように学生たちと接してくれる温かさがある点も、学生にとってはプラスアルファの魅力です。

卒業後はハウスメーカーに就職した私でしたが、元々海外へ行きたいと思っていたため、退職後に1年間アルバイトをしてお金を貯め、オーストラリアへ行きました。そんな海外での暮らしの中で、飲食店でアルバイトをしていたことが今の仕事につながっています。日本に戻ってきてからはホステルで働き、自分が作ったメニューをお客様が食べて喜んでいる姿を見たり、多くの人との出会いを魅力に感じて、飲食業界で頑張っていきたいという気持ちがどんどん膨らんでいきました。現在はオーストラリアで一緒に見識を深めてきた髙瀬と力を合わせて店を盛り上げていますが、仕事に取り組むうえで大切にしていることは、ちょっとした気遣いです。この店でお客様に心地よい時間を過ごしていただけるよう、常に目配り気配りを心がけています。

学生時代は様々なジャンルのアルバイトも経験しました。工事や畑仕事、飲食店など、海外で過ごしてきた経験はもちろんですが、この学生時代の経験も全てが混じり合い、今ここに集結していると感じています。私はビールが好きだから、これからはバーやホステルもやってみたい。さらに大きなことを言えば、函館のまちをジャックするくらいの気持ちで、様々なことにトライし続けていけたらと思っています。

07

函館バス株式会社 バス事業部営業課 勤務

金澤　裕美さん

平成28年3月卒業／北海道函館稜北高校出身



「楽しい」「ワクワクする」と思える気持ちで仕事と向き合うことによって、難しいことにもチャレンジする意欲が湧いてきます。



お客様に気持ちよくバスを利用していただくためには、他部署のスタッフとの連携も大切です。そこからヒントをいただくこともあります。

地域に根ざした学びができる函館大学には、地域の企業・団体などと交流しながら調査・研究、発表を実践的に学べる「商学実習」という授業があります。「生まれ育った函館のために役に立つ仕事がしたい」と思っていた私にピッタリだ!と思い、進学を決めました。在学中はイベントの立ち上げから関わり、ゼロベースから計画・運営を行なった新入生歓迎イベントや、他の大学や社会人の方々と交流しながら計画・運営に携わった新成人実行委員会での活動が印象深く残っています。考えたり意見を述べたりなど、自分を成長させてくれたこのような経験は、社会人になってからも大いに活かされていると思っています。

私は大学卒業後、弊社に就職しました。そのきっかけはインターンシップ制度での取り組み、さらにはそこから派生した観光バスのバスガイドのアルバイトでした。業務体験によって路線バス以外にも観光バス、イベントの企画立案、旅行会社様への商品提案など、多岐に渡る事業を展開していることに魅力とやりがいを感じたのです。

現在はバス事業部営業課に所属し、主に路線バスの計画策定やダイヤ改正、運行管理、各種広報活動、イベント立案などを中心に業務に取り組んでおり、学生時代の経験が今につながっています。一番の励みはお客様からの声。特にイベントの催行内容に合わせた臨時バスでの行き先表示に対する大きな反響は、次への活力の源にもなっています。

大切にしていることは「旬な情報のキャッチ」と「他地域の公共交通機関を意識して利用する」こと。とにかく、積極的に新しいことを学ぶように心がけています。まだまだ一人前とは言えませんが、後輩職員のサポートができる先輩になることが当面の目標です。

お客様の喜びの声が仕事に取り組む一番の励みとなる。

興味のある・なしに
関わらずチャレンジを。

08

福島民友新聞社 喜多方支社 勤務

斎藤　優樹 さん

平成30年3月卒業／新潟明訓高校出身



記者は人と会う仕事です。相手に寄り添うことを大切にし、聞くだけでなく、確認のための問いかけもします。
※撮影のためマスクを一時外しております。

自分が理解した上で書いた記事でなければ、読者には伝わりません。さらに、分かりやすく伝えるための言葉選びも大切です。

多くの人たちを笑顔にさせられる記事を書き続ける。

教職の授業が転機となり見えた新聞記者の道。

地元の福島県で新聞記者として駆け回っています。今、担当している地域は「喜多方ラーメン」で全国に知られる喜多方市など3市町村。市町村選挙や事件取材、スポーツや地域の暮らしなどを支える記事の執筆など、仕事は多岐にわたります。

読者が新聞に求めているのは、新鮮で正確な情報です。事件やネタによっては遅い時間まで取材を行い、時間に追われながら記事にします。この春で入社5年目となりますが、壁にぶつかることもあります。常に勉強で、先輩方がこれまでに書いてきたものや他紙の記事を読み、表現の引き出しを増やすよう取り組んでいます。苦しい時もありますが、記事の反響や読者からの感謝の言葉に支えられています。

現在はメディアの世界で奔走する私ですが、大学2年生まではメディアとは無縁の学生でした。転機となったのは大学3年生の教職の授業。公民科の教材研究で新聞を取り入れたものを考えたり、仲間と社会情勢などを語り合ったりする中で、社会の枠組みをもっと知りたいと強く思うようになりました。教職の恩師が「サポートするから両方に全力でぶつかってみよう」と、進路に迷う私の背中を押してくださったのがとても大きかったです。函館大学は小規模大学だからこそ、一人ひとりへのサポートが手厚いと感じました。目標がなく迷っている人は、自分の興味や趣味に全力で向き合ってください。成功するため、輝くために考えることを止めないでください。自分に向き合い、考え続けた先に必ず目指すべき目標が見つかるはずです。

私の目標は「記事で多くの人を笑顔にすること」です。入社当時から目指すべき姿は変わっていません。明確なゴールはないですが、これからも県民の人生を明るく照らすためにペンを握ります。

09

税理士法人道南会計事務所（税理士）勤務

佐々木　敬さん

平成18年3月卒業／北海道函館稜北高校出身





日々、たくさんの資料や書類と格闘しています。しっかりとした知識や情報は自分自身の力として蓄積されていくことを実感しています。



円滑なコミュニケーションをとることは、仕事を成功させる上で最も大切な能力の一つ。経験豊富な先輩からの助言も役立っています。

相手の信頼を しっかり得るため 自身を成長。

税理士は経営者の ビジネスパートナー。

税理士の仕事に興味を持ち始めたのは、大学卒業後に就職した信用金庫で働いていた時でした。取引先の経営者に融資の提案などを行った時に、「税理士に相談します」という回答がとても多く、税理士に対する経営者からの信頼の高さを肌で知ったことがきっかけとなりました。税理士となった現在は、会計事務所で顧問先の税金の申告や経営相談業務を行っています。経営者から厚い信頼をいただき、ビジネスパートナーとして対等な立場で接してもらえることにやりがいを感じています。しかし対等に接していただける分、責任は大きくなります。こちらが顧問先の税務相談や経営相談に関する回答を間違えると経営破綻もあり得ます。回答には十分な検討を重ねていかなければなりません。

そこで、税理士として大切にしていることは、どんな時でも逃げないこと。さらに圧倒的な法律知識とコミュニケーション能力が必要です。わからないことが毎日のように発生し、調べては回答するという繰り返し。自分の成長が顧問先からの信頼につながるため、日々情報に対するアンテナを張ることを心がけています。

函館大学には、さまざまなことにチャレンジできる土壌がありました。私も多くの実習を経験できたことが印象に残っています。教員免許取得のための教育実習、老人ホームや障がい者施設への見学などの課外授業では社会人の方々とふれあいながら、さまざまな業界のことを知れたことは、今の仕事に役立っています。大学生活で手にした財産も活かし、税理士としてこれからも経営者の方々に親身に寄り添い、道南経済の発展に貢献していきたいと思っています。皆さんもさまざまなチャレンジをして好奇心をたくさん養ってください。

10

函館市教育委員会 勤務

板谷　舞さん

平成29年3月卒業／北海道函館稜北高校出身



知らない、慣れないことがまだまだたくさんあるので、忘れないようにメモを取るなど、自分なりのマニュアルを作って知識を深めています。



パソコンの技術もこの仕事には求められるスキルのひとつ。あまり得意なほうではないため、スキル向上のため努力を続けています。

函館大学は商学部のみの単科大学でありながら、さまざまな、かつ豊富な講義を展開しているのが魅力。学生が学外へ出て調査・研究する機会も多く、人と話すことが得意ではない上に、自分から行動するタイプではなかった私でしたが、そのおかげで行動力が身に付いていったと感じています。その影響もあり、FMラジオ局のパーソナリティという貴重な経験ができたことも良い思い出です。

このように地域に根ざした学習をしてきた中で、それを活かせる仕事がないかと考えていましたが、在学中には見つけることができず、卒業後は函館市役所で嘱託職員として働いていました。そして働いていくにつれて「やはり市役所が地域に一番貢献できる場所なのだ」と感じるようになり、本採用の試験を受けたのです。現在は教育委員会に配属され、経理業務を担当しています。大切なお金に関わることですからミスや遅れが許されず、迅速かつ正確さが求められる仕事です。責任の重さにプレッシャーを感じながらも、市民の方々の暮らしを支える仕事を任せていただいていることにやりがいを感じる日々を過ごさせていただいています。

経理という仕事ですから、学生や生徒さんと直接会う機会はありませんが、学校運営に関わってくるため、皆さんがより良い学校生活を送れるよう、間接的に尽力していきたいと思っています。そのために必要なことのひとつが読解力。書類を作成したり読み取る力が求められますので、本や新聞などを読むことを習慣づけるようにしています。

市の職員は異動がある分、さまざまな分野を経験することができます。知識・経験豊富な職員となって、市民の方々を支えていけるよう頑張っていきたいです。社会へ出ると交流も増えますので、皆さんも学生のうちにコミュニケーション能力を高めていってください。

働くうちに徐々にやりがいが膨らんでいった場所。

市民の期待に応えられる職員になりたい。

11

北海道檜山振興局 勤務

村上 日菜子さん

令和4年3月卒業／市立函館高校出身



専門分野だけではなく、幅広い知識と見識、経験を積んでいきたいですね。その時間が自分の自信につながると思っています。

学生時代に培った、企画・運営などの経験・実践も役立つと感じています。とにかくチャレンジして、そこから学んでいく姿勢も大切です。

知識・経験豊かな職員となって道民を支えたい。

緊張感を持って任された仕事に向き合う。

卒業後に北海道職員として、北海道檜山振興局の保健環境部社会福祉課地域福祉係で働いています。生活保護受給者の方々に関わる業務を行っている部署なのですが、私はその中で経理業務をメインに担当。業務の中でミスや遅れが発生してしまうと、受給者の方々の生活に直接影響を与えてしまうため、「忘れていました」は通用しません。とにかく「迅速かつ正確に」を一番に心がけて、毎日緊張感を持って自分の仕事と向き合っています。その責任の重さというプレッシャーはありますが、任せていただいているという信頼に応えたいという気持ちを抱きながら、北海道職員という立場上、道民の皆さんの生活に役立つ仕事をさせていただけていることに大きなやりがいを感じています。

私が公務員試験に挑戦しようと思ったきっかけは、函館大学のキャリアの方に「あなたは公務員に向いていそう」と言っていただけたことでした。それまでの就活中は、公務員というものがあまり頭になかったこともあって、社会福祉や生活保護の仕組みなどに関する知識は、ほとんどない状態からのスタート。現在も覚えなければならないことがたくさんあるため、聞く、調べる、メモする、などを大切にしながら、自分にとってのマニュアル作りをして、着実に階段を上がっていきたいと思っています。

学生時代を振り返ると、オープンキャンパススタッフの経験が思い出に残っています。函館大学のオープンキャンパスは、学生が主体となって企画・運営をしています。先日、大きな会議の受付を任されたのですが、会議や当日の進行など、その時の経験が役立ちました。北海道職員は、いろんな分野を経験できるのも特徴です。幅広い知識と経験を持つ職員になることが、これからの私の目標です。

12

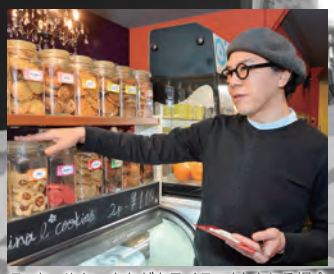
ROMANTiCO ROMANTiCA（ロマンティコロマンティカ） オーナー

長谷川 達さん

平成15年3月卒業／正則学園高校出身



注文されたメニューを運ぶ時は、お客様の雰囲気を感じ取り、お出しするタイミングや間を大切にしています。



クッキーやケーキなどをテイクアウトされる場合は、一緒に楽しむ飲み物などを伺い、最適な商品をおすすめしています。

飲食業の仕事に興味を持ったのは、大学時代の喫茶店やレストランなどでのアルバイトがきっかけ。ホール業務、調理業務、ドリンク作りなど、さまざまなポジションの仕事をさせてもらっていたのが楽しかったのです。このカフェ「ROMANTiCO ROMANTiCA」が2008年9月、函館市弁天町に移転開業した時にオーナーとなり、現在は接客、調理から経理に至るまで、お店の運営に関わるすべての業務を行っています。

東京出身である私は、高校を卒業したら「簡単には戻って来られない土地で、一人で頑張る」という強い覚悟を持ち、函館大学に進学しました。函館大学での授業で特に印象に残っているのがゼミです。そのゼミでは自分の好きなものをプレゼンする課題があり、「どうすれば相手にうまく伝わるか、興味を持ってもらえるか」を考え、多くの人の前で伝えたいことをしっかり伝えることが面白くもあり、良い経験になったと実感しています。

函館大学で過ごした日々の中でたくさんの人間関係を築くことができ、そのネットワークを大切にしたいと思って函館に定住。お店を持ち、運営していくのは大きな責任が伴いますが、やりたいことを自分で決められる楽しさがあります。私やスタッフが考え、決めて実践したことがお客様に喜ばれ、何度も足を運んでもらえるようになるのは嬉しく、飲食店経営の面白いところと言えるでしょう。

オーナーとなってから未経験のことは「失敗して、学ぶ」の繰り返し。踏み出すには勇気が必要ですが、失敗を恐れて何もしなければ成長はありません。みなさんも未知のことにどんどんチャレンジしていってほしいと思います。そして勉強も遊びも趣味も大事にして、時間を有意義に使い、将来の方向をじっくりと考えてください。私も現状維持に満足せず、新たな取り組みに挑戦し続けていきます。

現状に満足せず新しいことにチャレンジ。

やりたいことを
自分が決める面白さ。

13

RyDEEN Co., Ltd（週刊ワイズ）勤務

北川　宏 さん

平成12年3月卒業／帯広北高校出身



メディア業界は華やかなイメージを持たれがちですが、とにかく地味な作業ばかり。人の目に触れない時間と労力が多いという大変さがあります。



高校時代に地元ラジオ局「FMウイング」でパーソナリティを務めた経験が、メディアに興味を持ったきっかけ。誰かに何かを伝えることは楽しい！



目指すは東南アジアのスペシャリスト。

未来を見据えた教えにワクワクした学生時代。

現在、約10万人の日本人が住んでいると言われるタイ・バンコクで暮らしています。ここで日本語情報誌『週刊ワイズ』の編集長をやっています。雑誌編集に関わる全責任と組織マネジメントがおもな仕事で、ほかにも、生活情報誌、ビジネス年刊誌なども手がけています。また、個人活動としては、定期的にカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、中国（雲南省）へ海外取材に行き、そこで見聞きしたものを日本の経済誌やビジネス誌にて執筆。さらには、中小機構の国際化支援アドバイザー、タイに進出した日本企業の顧問、講演会も行っています。

雑誌づくりの仕事は、常に新しいヒト・コト・モノとの出会いの連続なので、飽きることがありません。特に、タレント、スポーツ選手、文化人など、“会いたい人に会える”ところが魅力。ときには一国の首相でもそれが叶うことがあります。また、世の中の変化を肌で感じ、経済発展している様子を目の当たりにできるのもタイならでは。日本ではなかなか見られない光景です。

歴史の表舞台となった函館で過ごした4年間は、本当に有意義で、函館大学での思い出は私の財産です。特に民間企業出身の津金孝行准教授の講義は楽しかったです。当時、広まりはじめたばかりのインターネットが世の中を変えるといったお話から、レポートや卒論はデータで提出させるなど、未来を見据えた教えにワクワクしたものです。先生の“新しいものを知り、受け入れ、活用する”という発想は、メディア業界で働く上で活かされています。

今後の目標は、タイを含むASEAN（東南アジア諸国連合）のスペシャリストになること。ASEAN地域の経済やビジネスに関して「日本人ならば北川に相談」と言われる人物を目指していきます。

14

青森県立三沢商業高校 勤務

山田 真菜さん

令和3年3月卒業／青森県立八戸商業高校出身



何気ない生徒とのコミュニケーションを通じ、生徒たちの成長を感じるのも大切。学習のこと以外の趣味の話に盛り上がることもありますね。

教えることと同時に、生徒から学ぶこともたくさんあります。教師という職業の奥深さを日々実感しています。

生徒の人生を支えられる教員になれるよう日々努力。

出会った先生方が導いてくれた教育の世界。

函館大学を卒業後、地元の青森県内にある商業高校の教員として充実した日々を過ごしています。函館大学への進学、そして教員を目指すきっかけとなったのは、私が出会ってきた多くの先生方の存在でした。それぞれの先生方が私にかけてくれた言葉、子どもたちに対する思いによって救われたことが多々あり、私も子どもたちの人生を支えられるような仕事がしたいと思って教員の道を進もうと決めたのです。

現在は商業科で財務会計Ⅰ、ビジネス実務、広告と販売促進などの授業を担当。生徒たちと向き合う中で、「本当の意味で生徒たちのためになることは何か」を考えるようにしています。もちろん、個人個人それぞれが持つ良さを認めてあげることは大切ですが、その良さを万人が認めてくれるとは限りません。生徒自身が自分のことを認められるように、教員という立場で厳しい言葉をかけることも必要であると感じ、それを実践できるように心がけています。また、今の私はまだまだ教員として未熟な立場です。上司にはいつもご迷惑をおかけしているため、自分にできることだけでなく、できることを増やしていきたいと思っています。

函館大学では、教職課程の中で模擬授業を多く経験させていただき、心の準備ができたうえで教育実習に臨めたことはもちろん、今にも活かされていると感じています。生徒の頑張っている姿や楽しんでいる姿を見ることが、頑張る力になっています。周りの先生方と積極的に接して勉強しながら、担任を任せてもらえる先生となり、卒業生を社会へと送り出すことがこれからの目標です。

15

ザ・リッツ・カールトン京都 勤務

矢本　千晶さん

平成25年3月卒業／北海道函館西高校出身



将来の夢は、ホテルの経営・運営陣になること。そして、いずれは北海道に戻り、それまでの社会人経験を活かして教育に携わりたいです。



クレームも、最初に受けたスタッフが最後まで対応するのが当ホテルの流儀。ホテルもスタッフも成長できるチャンスをいただける機会です。

大学生のとき、20歳のお祝いにと、姉にニューヨークへ連れていってもらいました。そこで、フレンチレストランで働く日本人スタッフと出会ったのです。海外で働くのが夢でしたので、どのように就職されたのかをたずねました。すると、旅行でニューヨークを訪れたとき、たまたま求人を見つけて面接されたとか。そのような方法があるのかと、とても衝撃的でした。さらに詳しくお話をうかがうと、日本ではホテルにお勤めだったとのことで、ならば私もホテルから始めようと決意したのが、この仕事に就いたきっかけでした。

現在、お客様とホテルが最初に接点を持つ、宿泊予約を担当しています。しかし、予約受付だけが仕事ではありません。当ホテルは、スタッフの判断でお客様へ一歩踏み込んだサービスを行います。例えば、ご結婚記念日をホテルでとお考えのお客様には、スタッフ一同からのお祝いの寄せ書きを贈らせていただくなど、ちょっとした「WOW!」を演出。マニュアルに沿ったものではなく、お客様それぞれにパーソナライズされたサプライズをプレゼントできるのです。それは、ホテルスタッフという立場だけでなく、矢本千晶一個人としてのおもてなしでもあり、やりがいと楽しさを感じています。

そこで必要となるのは、お客様と信頼関係を築ける人間性です。私もまだ勉強中ですが、函館大学に在籍していた期間で、人と向き合うとは何かを学べたと思います。例えば、留学先でお世話になったホストファミリーとの出会い、学外の学生とも交流できる「HAKODATEアカデミックリンク」での活動、何よりも先生方との距離が近く、函館しか知らなかった私に生きた経験談をたくさん聞かせてくださいました。温かな方々との触れ合いが 今の私の礎になっています。

ホテル業界を目指すきっかけはニューヨーク旅行。

学生時代の出会いが、
私の礎になっています。

16

株式会社 三田商店セメント課 勤務

遠藤　要 さん

平成27年3月卒業／岩手高校出身



打ち合わせは入念に。疑問を残さぬよう、聞き漏らさないことはもちろん、自分が伝えたいことを相手にしっかり伝えることも大切です。

目標を持つことが大きな励みとなり、仕事に対する意欲にもつながっています。函館大学で学んだことを、これからも活かしていきたい。

函館大学を志望した一番の動機は、簡単に地元へ戻れない場所で、自分磨きをしたいと考えたからでした。さまざまなことに挑戦し、自分を成長させたいと思ったのです。私は4年間、硬式野球部に所属しており、日々、全国大会出場という目標を掲げて努力し、1年生の秋には全国大会「明治神宮野球大会」に出場しました。大学では全国各地から集まった仲間たちと寮生活を共にし、学業や野球に励み努力した事により、掲げた目標を達成できた喜びを分かち合うことができました。そして、何事も決して諦めない気持ちが大切だという事を強く感じました。

今年で社会人3年目。当社は岩手県盛岡市に本社を置く土木建築資材及びエネルギーの総合商社です。私の仕事は現場で使用する生コンクリートに関する打ち合わせを行うほか、実際に現場へ行って商品が正しく納入されているか立ち会う管理業務、さらには現場で使用された生コンクリートやお客様にご購入いただいた各種商品の伝票作成も行っています。

最近、少しずつではありますが、知識も増えてきて仕事にやりがいを感じてきています。野球で例えると、最初から上手くプレーできるはずなんてありません。上手くなりたいからこそたくさん練習し、全国大会出場の夢を叶えることができました。その自信から、「この頃までにはこういう自分になっていたい」と目標を立て、そのためには何が必要かと逆算して実行する行動力が身に付いたと感じています。

函館大学は、本当に親切な教職員の方々ばかりですから、大学生活を一生懸命楽しんでください。やらないで後悔するなら、やって後悔すること。同じ後悔でも、後者のほうは必ず何かを学べるはずです。悩んだら何事にも「チャレンジ」する行動力を身に付けてください。

目標に向かって行動する。

やらずに後悔するよりも、
やってみて後悔を。

Message from OB & OG

道南うみ街信用金庫に勤務

英語国際コース・平成27年3月卒業
佐藤 杏介さん〈岩手県立前沢高校出身〉

“知る”ことから始めた就活 その経験は貴重な財産となった



3年次の12月から本格的に就職活動をスタート。その時点では業界や業種などを“これ”と決めずに、いろんなことを“知る”ことから始めようと、合同企業説明会などをひたすら回りました。さまざまな企業の生の声を聞き、自分にできることや、やりたいと思える仕事は何かを探していました。たくさんの合同企業説明会へ足を運んだことで、その時初めて知った仕事もありました。当時のことを振り返ってみると、現在の仕事をする上で貴重な経験や財産になったと感じています。

株式会社エスイーシーに勤務

企業経営コース・平成30年3月卒業
伊藤 諒さん〈函館大学付属有斗高校出身〉

興味があったシステム開発 商学部で学びながら夢を実現



SE（システムエンジニア）として小売店の販売管理システムを開発しています。商学部からSEを目指せるのかとお思いでしょうが、函館大学にはIT(情報技術)に精通した先生もいらっしゃいます。その先生のもとで、システムのプログラミングを経験。夏休みも毎日大学へ通い、完成したときは感動しました。この体験で“継続する力”が養われました。この力こそ社会人に欠かせないもの。根気よく最後まで仕事を続けるという大切なスキルを習得できました。

函館市役所に勤務

市場創造コース・平成29年3月卒業
阿保 孝彦さん〈北海道函館稜北高校出身〉

コースでの学びを通じて 新聞を読む習慣が身についた



市場創造コースでの学びを通じて、社会やビジネスの仕組み、さらには新聞記事を理解できるようになりました。以来、新聞を読むのが日課になり、今もその習慣は続いています。現在、ケースワーカーとして生活保護制度を利用されている方の支援を行っていますが、公務員という特性上、今後さまざまな部署と関わることになると思います。しかし、どこの部署へ異動になっても、新聞を読んで、地域や世界を知るという習慣は活かされるはずです。

専攻コースのこと、就職のこと、
いろいろ語ってくれました。

青森県立田名部高等学校に勤務

英語国際コース・平成30年3月卒業
吉田 直輝さん〈青森県立青森商業高校出身〉

教師への夢が一瞬揺らぐくらい
自分の可能性が広がった4年間



函館大学での学びを振り返って思うことは、いろいろなことにチャレンジできた4年間だったということです。オーストラリアへの短期留学、台湾・長榮大学へのサマーキャンプ、旅行会社と共同で観光モニターツアーを企画するなど、各活動を通じてチャレンジ精神が育まれました。途中、高校から目指していた教師になるという夢を変更しようかと思ったくらいです。それほど、たくさんのものを見て、体験し、自分の可能性が広がったんだと感じました。

株式会社商工組合中央金庫 函館支店に勤務

市場創造コース・平成29年3月卒業
坂本 郁香さん〈市立函館高校出身〉

大学時代に外国為替について学習
その学びが仕事に直結した



営業課に所属し、事務方として電話応対、来店されるお客様の対応など、営業業務のサポートを担当しています。学生時代、『国際貿易論』を専攻していました。ここで外国為替について学んだのですが、当金庫に入った1年目に外国為替の業務を担当。大学での学びは意外なところで直結することを実感した瞬間でした。また、函館大学は学生を大事にする大学。一人ひとりへの声がけ、ファーストネームで呼んでくれるなど、温かい学風だと感じました。

綜合警備保障株式会社（ALSOK）に勤務

商学・会計コース（現 企業経営コース）・平成16年3月卒業
大江 雅俊さん〈函館大学付属有斗高校出身〉

社会人として知っておきたい
教養を習得できた4年間だった



大学卒業後に入社し、2019年2月まで沖縄に勤務。現在は、故郷・函館に戻り、当社で取り扱っているセキュリティ商品の営業を行っています。大学では、法学や経済学などを学びましたが、今思うと、社会人として知っておきたい教養を習得できた4年間だったと感じています。また、海外研修旅行にも参加。ここでの経験は、良き思い出であり、かけがえのない財産です。同期とは今も交流があり、定期的に集まっては当時の思い出話で盛り上がっています。

HAKODATE
UNIVERSITY

Alumni Interviews 2017～2025

国内・海外で輝く
函館大学卒業生の
インタビュー集

この冊子は2017～2025年の
取材をまとめたもので、
掲載内容はそれぞれ取材当時の
ものとなっております。

函館大学

〒042-0955　函館市高丘町51番1号

0120-00-1172

[入試課専用フリーダイヤル]

TEL(0138)57-1181(代)　FAX(0138)57-0298
URL　https://www.hakodate-u.ac.jp
E-mail　nyushi@hakodate-u.ac.jp